

動詞連用形の構文・語彙的な機能

—日本語教育の立場から—

田 中 寛

Syntactic and Lexical Functions of Ren'yo Form of Verbs

—From the Viewpoint of Teaching Japanese—

Hiroshi Tanaka

The problems with verb conjugations and verb patterns have long been discussed but are still far from completely understood. Among other things, the ren'yo form (continuous base) of verbs, with its various syntactic and lexical functions, is an important area of study in Japanese language education. In this paper, their syntactic features will be classified and then the functions and meanings of verbal nouns of ren'yo form, and general and individual uses of complex verbs will be analyzed. The internal modification structure of complex nouns along with their meanings will also be examined. Finally the formal noun aspects of ren'yo form, realized when they appear in the sentence-end-component will be discussed. Since the lexical functions of ren'yo form complex nouns are of great importance for the vocabulary teaching for students of intermediate level and above, their basic structures and uses will be discussed.

[要旨] 活用と文型は古くて新しい問題である。中でも動詞連用形は構文的にも語彙的にもさまざまな機能を持ち、日本語教育においても重要な学習要素となっている。小論では文型にどのようにあらわれるかを整理したのち、動詞連用形名詞の機能と意味、複合動詞の一般的・個別的用法、さらに、複合名詞内部の修飾構造と意味について考察する。最後に形式名詞的な働きとして、接続、文末成分にあらわれるいくつかの意味的な用法についてみていくことにする。とくに語彙的な機能として連用形複合語の扱いについては、中級段階以降の語彙教育においても重要な意味をもつことから、小論ではその基本的な構造と運用について述べてみたい。

[キーワード] 動詞連用形、複合名詞、複合動詞、接辞、形式名詞

目 次

- | | |
|--------------|-----------------|
| 0. はじめに | 4. 語彙的な機能と連用形名詞 |
| 1. 構文と文体について | 5. 複合名詞の構造について |
| 2. 構文的機能について | 6. 接続と文末成分 |
| 3. 接辞的成分との関係 | 7. おわりに |

0. はじめに

0. 1. 活用と文型

動詞の活用形は日本語教育において構文、文型と深いかわりをもって
いる。とりわけ初級の学習者にとっては動詞の活用形とそれに続く後続句
との関係は文型学習のかなりの部分をしめており、これの理解と習得に多
くの時間が費やされているのである。活用といえばまず動詞の変化であり、
形容詞、形容動詞などの活用も、この動詞のふるまいを〈基準〉に考えて
いるところが大きい。動詞の活用形は一般的な順序として〈テ〉、〈ナイ〉、
〈タ〉などの形、そして辞書形または終止形といわれる原形のそれぞれが

文型とともに導入される。学習段階が進むにつれ、動詞はさらに可能形、使役形、受身形といった形態をあらわし、したがってそれぞれの活用形の在り方も複雑になってくる。また文型といわれるものには、

1) a. 私は京都へ遊びに行きたい。(動詞のみ)

b. あの店はいい品物があり／やす／親切そうだ。(動詞と動詞以外)
 ように、動詞や動詞以外の用言にも適用できるものがあることから、それぞれの運用についてはとくに系統的な整理と指導が必要なわけである。一方、初級から中級以降では、文型中心から語彙の働きへ、つまり、文の中の連語的、複合語彙的なものの理解が求められ、同時に動詞の活用形も文の中でどのような機能をはたしているのかが重要視されてくる。

0. 2. 動詞連用形の機能

動詞の連用形は最初歩の段階として文末のていねい体の語幹にあらわれるところから、〈マス〉形とも言われる。この他、連用形には〈テ〉形があるが、前者を第一中止め、後者を第二中止めと称することもある。それぞれ否定形である〈～ナイテ／ナクテ〉、〈～ズ〉の形も広く連用形にふくめられるが、ここでは〈マス〉形とよばれる、第一中止めの形をさして言うことにする。連用形は文を中止したり、過去や完了の助動詞に接続したりするなど、極めて多様を機能を果たしている。また露出形的な性格をもつともいえるもので、終止形と並んで活用の基本をなしている。日本語教育の実際においては、基本的な文型の動詞成分として、

2) 〈買い〉タイ、〈買い〉ニ行ク、〈買い〉カタ、〈買い〉ナガラ、

〈買い〉ソウ、オ〈買い〉ニナル、オ〈買い〉スル、…

などのように用いられているが、一方では

3) 帰り、見舞い、晴れ、東京行き、都会暮らし、試験休み、ひと休み、

移り変わり、迎へのバス、帰りの切符、四人乗りの車、…

のような連用形名詞語彙や複合語彙、また一部の数量詞につく動詞性(動

作性) 接尾辞としても多くみられる。そして、中級以降の教科書では、

- 4) a. 新幹線の暖房はききすぎのことが多い。
- b. その服とてもあなたにお似合いですよ。
- c. その雑誌、何月号からお入り用ですか。
- d. 夫の遅い帰りを待つだけにあきたらず、…
- e. 予想を上まわる客の入りで支配人は大喜びです。
- f. あの新人歌手はどうやら期待はずれだったなあ。
- g. 「一つはわさびをつけないでくださいね」—「一つはさび抜きね」

のような構文的な理解を必要とする例が多くあらわれることに気がつく。
注3

0. 3. 文型中心から語彙的な理解へ

文型中心の学習から語彙の多義的、派生的機能への認識発展のなかで、とりわけ「動詞代行」の名詞化は、文中のいろいろな位置に現われ、名詞本来の機能から発展し、いわゆる動作性名詞というさまざまな特徴を形成することから、しばしば説明や理解が不十分になることがある。例えば、学習者にとって次のような表現はどう解釈されるだろうか。

- 5) a. 図書券のお求めには消費税はかかりません。
- b. 夕方6時半に渋谷で待ち合わせというのはどう？
- c. 調べによると、二人は約五千万円の寺銭を稼いだ疑い。
- d. 鎌倉彫は精緻な彫りとつややかな塗りの美しさが特徴です。
- e. 書き間違いや書き忘れがないか、もう一度確かめてください。

名詞化というのは、〈モノ〉化、〈コト〉化、〈ヒト〉化、〈トコロ〉化など動詞の性格によってさまざまな意味特徴を有するわけで、単に形態的な変化の観察だけでは十分な説明がなされないことは勿論である。実際にはこれらは、「求める場合は～」「待ち合わせるのは～」「～ことが疑われている」「書き間違ったり～」などのように〈動詞的〉ないいかえを必要とするに違いない。つまりこれらは疑似的な動詞なのであろう。あるいは、

- 6) a. 私がこれから言う通りに、練習してください。
 b. 新しい年を迎え、改めて身のひきしまる思いだ。

のように、いわば「形式名詞」に転成して、文の接続あるいは文末の成分として用いられるものもある。小論ではこのような動詞連用形が、それぞれの日本語教育の段階でどのような表現形式の中で用いられているのか、また、語彙教育において気をつけるべき点など文型と語彙の二つの側面において各々の機能を考えてみることにしたい。

1. 構文と文体について

一般に日本語教育では、「文型」という枠や概念を広く扱っていることが多いが、ここではいわゆる統語上の成分としてでなく、文体的な特徴においてとらえ、動詞連用形の表われかた（続く言い方）を見てみよう。

1. 1. 文中・文末のていねい化

まず、動詞連用形は動詞文（文末）のていねい体に見られるところの、

7) <買い> マス／マセン／マシタ／マセンデシタ

未来・現在、過去の時制における肯定、否定をあらわす、基本的な四つのコブラ的語尾の語幹としてあらわれる。ついで働きかけや誘いをあらわす文末表現なども、動詞連用形に続く文型として提示される。

8) <買い> マセンカ、<買い> マショウ／マショウカ

初級段階では以上であるが、実際には話しことばをはじめとして、聞き手意識の強いていねいな句末、文末形式があらわれることは少なくない。たとえば、複文中の接続表現としてのていねい語の要素がそれである。

9) <買い> マシテ／マセンデ・マセンデシテ

<買い> マシテ／マシテカラ／マシタアトデ

<買い> マス・マセン・マシタ・マセンデシタ：カラ／ノデ／ノニ

<買い> マシテモ／マシテハ、<買い> マスト／マセント

〈買い〉マシタ・マセンデシタ：ラ、〈買い〉マス・マシタ：ナラバ

〈買い〉マス・マシタ：トキ

〈買い〉マシタ：バカリニ／モノデ／トコロ…

また、連体修飾語の中のていねい語としてあらわれることもめずらしくない。これは次のようないわば指示的な言い方に多く見られるようである。

^{注4}

10) a. あそこに見えますのが二重橋でございます。

b. こちらに座っていらっしゃいます方がA弁護士です。

さらには文末の、より意識的にあらたまった形式として、

11) 〈買い〉マス・マシタ・マセン・マセンデシタ／デス／デショウ

などがときには用いられたりするのである。しかしながら日本語教育ではこのような文中・文末のていねい化は積極的に扱ってはいない。これは教学上は動詞の活用形を重視し、同時に文末表現においてていねい化が簡潔に表示できるという背景から、意識的に考慮されていると思われるし、一方では学習者自身が日本人と日常接触する頻度と範囲における選択と判断によって自然習得されるべき性質のものと思われるからである。これらのていねい化が一般的、かつ機能的に行われると、いわゆる「簡約」的性格の日本語へ近づいていくわけであるが、一方では、

12) a. 私が不注意をしましたばかりに…。

b. ちょっと急な用事で遅れましたもので…。

などでいねいな後略文などにも多く見られることから、これらの文中の接続、文末の丁寧度の問題は今後上級レベルでも検討すべき課題であろう。^{注5}

1. 2. 連用形による文の接続

初級レベルでは〈テ〉形との用法の違いについて詳しくとりあげられることはあまりない。時間の連続にとまなう動作の継起についても、

13) a. 朝起きて、顔を洗って、新聞を読みます。

b. 朝起き、顔を洗い、新聞を読みます。

のようにほとんど同じふるまいとして説明されるのが普通的那样である。しかし、〈テ〉形との用法の相違について考えれば、〈マス〉形にはいくつかの運用上の制限がある。つまり、通常、〈テ〉形であらわされる手段や原因・結果などは一般に連用形を用いてあらわすことは不自然である。

- 14) ? a. 電車に乗り会社へ行く (; 電車に乗って~)
 ? b. 電話をかけ日時を確める (; 電話をかけて~)
 ? c. あなたに会えうれしいです (; あなたに会えて~)

また、動作動詞にかかる慣用的な状態副詞句も連用形は用いられない。

- 15) ? a. 抱き合い喜ぶ (; 抱き合って~)
 ? b. 波をけたて進む (; 波をけたてて~)
 ? c. つきつめ考える (; つきつめて~)

次の連続した二つの動作の一次的動作も一般に連用形は用いられない。

- 16) ? a. 靴を脱ぎ上がる (; 靴を脱いで~)
 ? b. 鏡を見ひげをそる (; 鏡を見て~)

つまり、動詞連用形接続は一般に、次の例のように、同時に起こる動作の並列的な指示、または二つ以上の動作の継起に意味的な特徴がある。したがって単なる文体上の相違としてかたづけることはできないのである。^{注6}

- 17) ネーブルは11月から5月にかけて数多く出回り、ビタミンCがたっぷり含まれています。

- 18) かれらは食物をしげしげとながめまわし、匂いを楽しみ、口に入れて味わい、入念に咀嚼する。(メ112)

19) 海苔は陽射しを浴びて初めてつやつやと黒光りする物に生まれ変わり、秋に収穫された柿は軒下やムシロの上で干されて干し柿になる。上の例19) では〈テ〉のなかどめとの性格の違いがよく表れている。つまり、連用形止めは〈テ〉のなかどめが複合的、従属的關係をあらわすのに対して、二つの動作あるいは二つの状態を時間的關係、並列的關係で示す

特徴がある。しかし、当然ながら二つの形の重なり、共存もあるわけで作文のときなど注意を要するところである。また、次のような形態的特徴をもつ連用形中止の慣用的な言い方もいくつか見られる。

20) a. 味といい、香りといい、申し分ありません。(*とって)

b. 父は朝から出かけており、何時に帰るか分らない。(*ておって)

また、いわゆる後置詞と称する動詞派生の複合辞にも、連用形止めであらわされるものがある。e. のものはいずれも使用される例である。

21) a. 出入り口につき駐車禁止 / 一名様につき一枚さしあげます。

b. 最近のデモ情報を聞くにつけ、納得がいかない。

c. 兄が秀才なのにひきかえ、弟は出来が悪い。

d. 過去の実績に鑑み、候補にあげることが決まった。

e. ~により / よって、~に基づき ~ 基づいて、~につれ / つれて…

さらに、意味上、あとの〈テ〉形に包接されるような場合、その前の動詞は一般的に連用形止めになることが多い。

22) 充電マークが点滅したら速やかに操作を終了し本機の電源スイッチを切り、充電用アダプタを接続し、充電をしてからご使用ください。

1. 3. 連用形の反復（疊語）形式

同一動詞の連用形を重ねると、付帯状況の副詞的修飾句として、特殊な接続機能をもち、次のように、〈～ナガラ〉、〈～ツツ〉の意味に近い、同時進行の動作、状態をあらわす。連用形並列関係の一部とみなされる。

23) a. 赤や青の無数の灯の隣めく街を車はつかえつかえ走った。(四26)

b. ハエの最盛期、キャンペラっ子たちは、しょっちゅう顔の前を手で払い払いして、ハエを追わなければならない。

(1986.12.1.朝日新聞)

c. …下宿代四円が払えず、延ばし延ばしになった月も多い。(瀧86)

この疊語形式には、「だましだまし」、「休み休み」などのように、もはや語

彙的な単位、慣用的な連語となってしまったものがある。これについてはあとの語彙的な機能のところでふれることにする。

1. 4. 副助詞などとの関係

動詞連用形にあるいくつかの副助詞がサ変動詞とともに後接した場合、対比や限定の意味をあらわすことがある。まず、〈ハ〉の場合、

24) a. 人に聞きはしても、自分で調べはしない。

b. いろいろ調べはしたが、まだよくわからない。

のように既定条件行為とその帰結において、二つの行為、動作の対比的な状況を呈示し、「ただ～するだけである」という一種の強調をあらわしたり、譲歩、留保的な意味をあらわす。また、否定形式とともに、

25) a. 僕達が動かしている間はこの子は死にはしませんからね。(白180)

b. 金になるものなら、何一つ見逃しはしない。(砲99)

のように、「ぜったいに～ない」という強い判断をあらわしたりもする。したがって、この種の用法では疑問詞をともなうことも多い。次は、間接疑問の形式で、将来における蓋然性をあらわす場合である。

26) かれは自分が踏みつぶされてしまいはしないかと、思い(砲100)

一方、〈モ〉をともなう場合、ある一定の条件下における一部肯定的な表現、また並列的關係において全面肯定、否定をあらわすことがある。

27) a. …近付いてきてドアが開いている部屋に忍びこんできた、とでも
いうのなら、それはそれなりにわかりもします。(白152)

b. 行けと言われれば、行きもしよう。

c. 少年の部屋では誰も死ななかつたし恢復しもしなかつた。(砲194)

d. 積極的に聞きもするし、自分できちんと調べもする。

e. 眼は執拗に人の姿を追い、まばたきもせずにじつと見つめるのだつた。(砲46)

〈デモ〉は次のように条件文の中で用いられることが多いようである。

28) a. あの先生に見つかりでもしたら、それこそ大変です。

b. 一発なぐりでもしなければ、腹の虫がおさまらない。

〈サエ〉もまた、とりたて、例示的な意味をあらわすが、次のように、

29) a. もうちょっと早く起きさえしたら、間に合ったのに。

b. あの時話しさえしなければ、誤解されずにすんだのに。

c. ただ新しいものを作りさえすればいいというものではない。

肯定、否定の条件節の中で強調的に用いられる。また、次のように、

30) そういいながら唇のあたりに微かな笑いを漂わせさえしているのだ
った。(砲118)

普通ではない、特徴的な、局限下の状況をあらわす場合にも用いられる。^{注7}

これらの〈ハ〉、〈モ〉、〈サエ〉、〈デモ〉はある程度、固定的な用法が多
いために、文中、文末などに自由にあらわれるとは限らない。

31) * a. だれも手伝いはしなうときは困りました。

* b. あのとき見もしなかつたら分らなかった。

* c. 今日はゆっくり外で食べでもしましょう。

その他、否定の状況を強調するものとして、〈～ヤシナイ〉、〈～ッコナイ〉、
〈～コソスレ〉などが動詞連用形とともに用いられる。

32) a. 「まさか、歯まで抜きやしないだろうな」そう言って笑う者もい
た。(砲249)

b. おまえ、あいつにおれがかないっこない、と思っているんだろう。
(砲82)

c. あの課長は社員をほめこそすれ、決してけなすことはない。

このほか、文末において動詞連用形に終助詞の〈ナ／ナヨ〉や、〈ネ／ネ
エ〉、〈タマエ〉などがついて、誘い、命令、祈願などをあらわすことがあ
るが、実際にはある種の使用制限が見られる。

33) a. さあ、遠慮しないで、どんどん食べなよ。〈男性言葉〉

b. さあさあ、飲みねえ、食いねえ。〈男性言葉〉

c. 我等を救い給え、一度家へ遊びに来たまえ。〈祈願、命令、勧め〉

2. 構文的機能について

ここでは一般に後続句と称される基本的な文型においてあらわれる動詞連用形の用法を、段階的な学習項目にそって見ていくことにする。

2. 1. 文中、述語成分にあらわれるものとして、次のものがある。

1) 〈～タイ〉、〈～タガル〉；希望、願望をあらわす言い方として、主として、〈～タイデス／タクナイデス〉、〈～タガリマス／タガッテイマス〉などの形で導入されるが、文中の連体修飾、連用修飾の形としても表れる。一般に教学上では話し手の人称（第一、第二人称と第三人称）による使用制限はあるとされるものの、希望・願望表現は実際の出出と伝達レベルのものが考えられる。つまり、文末成分とともに、

34) a. 彼はあなたに会いたいんです／会いたいそうです。

b. 彼はあなたに会いたいと思っています／言っています。

のような言い方は日常頻繁に見られるわけで、さらに後続句の補いに注意する必要がある。一方、自己を客観的に述べようとする場合には、次の例のように〈～タガル〉は一人称にも使われることが多い。

35) a. 私は子供のころ父と一緒に遊びに行きたがった (ものだ)。

b. こんなに私が会いたがっているのになぜあなたはわからないの。

〈～タガル〉は〈～タガリヤ〉となって、「聞きたがりや」「話したがりや」などの性格をあらわす名付け名詞へも派生する。また、〈～タイ〉は次の例のように、文末、文中の付属的な成分とともに用いられることも多く、進んだ段階では必要な表現項目としてあげられよう。^{注8}

36) a. 私もコーヒーが飲みたくなりました。

b. たばこを吸いたくてならない／たまらない。

- c. ヨーロッパへ旅行に行きたいと思っています。
- d. 少年はかじかんだ手をこすりあわせたいのを我慢した。(砲243)
- e. あなたに会いたい一心で、やってきました。
- f. 忙しくて、猫の手も借りたいくらいです。

2) <～ニ行ク／来ル／帰ル> ; 動作、作用の目的、対象をあらわす言い方として、これも割合に早い時期に導入されるが、主動詞にはこれらの移動動詞のほかに、<～ニ立ツ>、<～ニ呼バレル>、<～ニ寄ル>、<～ニ出ル／入ル> などのような、方向をあらわす動作動詞もいくつかある。

37) a. 井石はスイッチを止めに立ち上がった。(白61)

b. 友達のところへ本を返しに立ち寄りました。

38) 足を使いワンツ一の主体のボクシングで突き放しにかかる腹だが、中盤までもつかどうか。(1990.2.9.朝日朝刊)

次の例は野球や相撲の解説などでよく聞かれるものであるが、動作の目的というよりはむしろ動作そのものの方向づけをあらわしたもので、<～テ行ク／来ル> とほぼ同じ使われ方をしている。^{注9}

39) a. 初球から打ちに行きました。

b. 初球から打って行きました。

40) a. まわしを切りに来ましたね。

b. まわしを切って来ましたね。

つまり、<来る／行く>は移動動詞本来の意味から、アスペクト的な性格に転じたものである。また、次のように前項の動詞が名詞と複合語を構成し、転成名詞となっているものもある。つまり疑似動詞成分である。

41) 父は山菜とりに行ったまま、まだ帰って来ません。

3) <～ソウ>、<～ソウモナイ> ; 様態をあらわす言い方で、否定の形式には<～ナサソウダ>もあるが、動詞構文では一般に使われにくい。

42) a. 今にもろうそくの火が消えそうです。

- b. いくら待っても彼は来そうもない。(／－にない／－にもない)
c. もうちょっとで壊れそうになるところでした。

この外、〈～ソウ〉は〈(木が倒れ)ソウダ〉のような述語成分(文末構造)、〈(木が倒れ)ソウナ(ところ)〉、〈(木が倒れ)ソウニ(立っている)〉のように修飾成分(連体修飾及び連用修飾構造)の三つの形態があることも運用上、注意しておきたい点の一つである。^{注10}

4) 〈～ナガラ〉、〈～ツツ〉；二つの動作の片方のつきそいな状況や逆接の関係、現在進行的な動作をあらわしたりする言い方である。

- 43) a. テレビを見ながら御飯を食べるのはよくないです。
b. 知っているながら、かれは教えようとはしません。
c. あたりの様子をうかがいつつ、ゆっくり前進する。
d. 静かにしようと思いつつも、つい笑ってしまった。
e. 熱帯各地の森林は急速に痛められつつある。

5) 〈～次第〉；次のように文中の接続成分として、

- 44) a. 現物を受けとり次第、お金を払ってください。
b. 引越し先がわかり次第、ご連絡いたします。

「～とすぐに」という時間の前後関係をあらわすのが普通であるが、文末において条件の選択をあらわす場合は、^{注11}

- 45) 試合に勝つかどうかは練習の仕上り次第です。

前の文内容をうけて「練習が仕上り次第です」とは言えないように、動詞連用形はここでは変項部分でなく、複合名詞となったものである。

6) 〈～ガチ〉；ある動作、現象の起こる傾向、程度などをあらわしたり、様子、程度を付帯的にあらわす言い方にもみられる。^{注12}

- 46) a. 冬になるとどうしても部屋にとじこもりがちです。
b. 「どう兄さん、具合は」少年はためらい勝ちに言った。(砲197)

2. 2. いわゆる敬語表現の文型に動詞連用形があらわれる場合。

1) <オ～ニナル>、<オ～ニスル> ; 尊敬、謙譲の意味をあらわす言い方であるが、依頼、要求などの婉曲的な言い方としても用いられる。^{注13}

47) a. 社長はもうお帰りになりました。

b. わたしが荷物をお持ちしましょう。

48) a. もう少々中へお詰め願います。

b. ロビーでお待ちいただけませんか。

2) <オ～ナサイ／オ～クダサイ、～◇> ; 前者はいわゆる親愛のこもった柔らかい命令をあらわし、後者は指図、依頼、要求などをあらわす。

49) a. ちょっとお待ちなさいよ。

b. お忘れ物のないよう、もう一度お確めください。

c. お帰り、お休み、お黙り!、お座り!

なお、ていねい語の語彙的な機能については、4. で扱うことにする。

2. 3. 次に連用形動詞との語彙的結合として、可能、不可能などの意味をあらわす文末表現がいくつかみられる。

1) <～カネル／～カネナイ> ; 「～しようとしてもできない」「～するかもしれない」という可能性の意味を婉曲的にあらわすのに用いる。

50) a. 少しの報いもない仕事に従事するかれの真意をはかりかねる。

b. マナーを心得ない人に他人が注意したら殺されかねない社会情況

2) <～ウル／～エナイ> ; 文末において可能、不可能の確率、判断を主観的に述べようとする言い方で、これも語彙的な単位にちかいものもある。

51) a. 彼がうそをつくなんて絶対ありえません。

b. 地震は起こりうるべき問題として検討すべきだ。

3) <～キレル／キレナイ> ; 完結相における可能、不可能の成立を述べるもので、とくに否定形式が文末にあらわれる場合が多い。

52) a. こんなにたくさんあっては一人で食べきれません。

b. 彼だけが被害を被っているなどとは言いきれない。

4) <～スギル/タリナイ> ; 動作、状態の超過、程度の過不足をあらわすもので、「あの人は働きます/あの人は働きすぎです」のように、むしろ状態形容詞に近い言い方もみられる。

53) a. 寝過ぎて、駅を通り過ぎてしまった。

b. 春の朝はいくら寝ても寝たりしませんね。

これらの後続句は、後に述べるような補助動詞的な機能をもつ一方、文末文型として、話し手の限定的なムードをあらわす場合もある。

3. 接辞的成分との関係

ここで考察する動詞連用形の用法は、語彙的であると同時に、統語的な機能をもつものである。まず、接辞的な成分をともな^{注14}って、程度、頻度やアスペクト相の意味を含むものと、ついで補助動詞とともに用いられる複合動詞とに大きく分類して考えてみることにする。

3. 1. 接辞的な成分との用法

動詞連用形が接辞的な語彙とともにある語彙的な単位を構成し、文中、または文末の意味的な成分をなす場合がある。この中には一部、アスペクト相の性格をもつものもある。また、これらの複合名詞には動詞、形容詞とともに連語的な単位をつくるものもある。

1) 程度、傾向、状態、性質などをあらわすものとして <～グアイ>、<～カゲン>、<～ギミ>、<～ココチ> などがある。

54) a. 水の出-具合、選手の走り-具合、戸の閉まり-具合、…

b. お湯のわき-加減をみる、うつむき-加減に話す、…

c. ふとり-気味、遅れ-気味、疲れ-気味

d. 座り-心地のよい椅子、酔い-心地のいい酒、寝-心地が悪い、…

次のものはむしろ複合的關係に近い、生産性の低いものである。

- 55) a. ひかえ-め、おさえ-め、さがり-め cf. 勝ちめ、折りめ
b. 怒りっ-ばい、飽きっ-ばい、ひがみっ-ばい (性格)
c. 荒れ-性 (ショウ)、こらえ-性、凝り-性、照れ-性、冷え-性
d. 気どり-屋 (ヤ)、照れ-屋、はにかみ-屋
e. 引き立て-役 (ヤク)、聞き-役、憎まれ-役

次のような動詞連用形のあらわれは複合語の成分であり、したがって全体として独立した固有の語彙単位となっている。

- 56) a. 飾り : 気 (ケ)、湿り : 気 (ケ)、自信あり : 気 (ゲ)、…
b. 乗り : 気 (キ)、勝ち : 気 (キ) / 移り : 気 (ギ)

2) 方法、様態をあらわすものとして〈～カタ〉、〈～ヨウ〉、〈～ザマ〉、〈～ブリ / ～プリ〉などがある。

- 57) a. 箸の使い方、漢字の読み方、荷物の置かれ方
b. あたまは使いようだ、ものは言いよう (考えよう) だ
c. 振り向きざまに、続けざま、生きざま
d. 独特な話しぶり、飲みっぷりがいい

さらに〈～カタ〉は、次のような方法の種類、状態の生起を説明する。

- 58) a. 少年はあんな注射の打ち方があるのかと思った。
b. 電車はポイントを通過するたびに、変な揺れ方をした。

一方、動詞連用形の変項部分にボイスが関与する場合、〈～カタ〉は、

- 59) a. 今年のM選手はむずかしい使い方をされている。
b. 今年のM選手はむずかしい使われ方をされている。

のようにいずれの部分かにあらわれることになる。このほか、「打ち方やめ」^{註15}のような場合は、その状態の継続をあらわしたり、

- 60) 会費の振り込み方、よろしく願います。

のように接辞的用法でなしに複合語を形成する場合がある。この「方」は「～ように」の意味に近く、単純に前の名詞要素に結合しているもので、

しかも、特有のアクセントをもっている。また「方」には「売り方」「買い方」のように、一方の関係者の想定をあらわすような意味もある。〈～ヨウ〉も上にあげた用法のほかにも、慣用的な文型として、

- 61) a. 考えようによってはどちらともとれる言い方だった。
 b. 電話番号も住所もわからないでは、さがしようもない。
 c. 何とかして連絡しようがあったらだろうに。

のような、手段の選択、不可能な事態をあらわす言い方もみられる。

3) 動作の継続、持続をあらわすものとして〈～ツメ〉、〈～トオシ〉、〈～キリ〉、〈～ツパナシ〉、〈～ホウダイ〉などがある。

- 62) a. 置きっぱなし、攻めっぱなし、読みっぱなし
 b. 立ちづめ、働きづめ、笑いづめ、叱られづめ
 c. 話題でもちきりだ、親にまかせきり、医者にかかりきり
 d. 髭をのばしほうだいにのばす、言いたい放題に言う

4) 動作の端緒、完了、附随的な関係をあらわすものとして、〈～ギワ〉、〈～シナ〉、〈～ガケ〉、〈～タテ〉、〈～ガテラ〉などがある。

- 63) a. 帰り際、ひき際、出しな
 b. 寝がけ、読みかけ、渡りぞめ、通りがかり
 c. 出来たて、洗いたて、揚げたて、結婚したて
 d. 遊びがてら、ほめついでに

この場合も動詞の性格によって、慣用的なものが多い。〈～タテ〉は生産性が強いが、ある種の試みの結果という意味上の拘束がみられる。〈～ガテラ〉、〈～ツイデ〉の前項は独立した名詞成分と見なされる。

5) 〈～ゴロ〉、〈～ドコロ〉などのように、ある一定の時間、場所的な基準をあらわす接尾辞とともに、連用形複合名詞を構成するものがある。

- 64) a. 見ごろ、食べごろ、… 買いどき、使いどき、…
 b. 見どころ、見せどころ、つかみどころ、ふんばりどころ、…

これらの被修飾名詞成分は「～していい、～するのにいい」といった、必然、当為的な意味をあらわす形式名詞的な性格のものである。

6) 行為を遂行した時点での価値、成果の判断を述べるものとして、〈～ガイガアル〉、〈～ゾンスル〉などの言い方がある。これらはほぼ一語化したものが多く、連用形は広く変項成分とはなりにくい。

65) a. 頼りがいのある人、やりがいのある仕事

b. 買いぞんする、使い出がある

c. 見栄えがする、読み応えがある

3. 2. 補助動詞との結合

一般に複合動詞、補助動詞とよばれるものには〈テ〉形と連用形のものがあるが、ここでは後者のうち、統語的な性格をもつものをあげる。

1) アスペクトに関するもの。

66) 習い-ハジメル、降り-ダス、走り-カケル、通り-カカル、

読み-ツツケル、降り-ツツク、書き-ススム、鳴り-ヤム、

調べ-オエル、書き-オ瓦尔、作り-アゲル、逃げ-オオセル、…

このなかでは例えば、〈～始マル/始メル〉、〈～出ル/出ス〉、〈～カワル/カエル〉など、自他対応のものもいくつか見られる。

2) 動作の完遂に関するもの。

67) 話し-ツクス、使い-ハタス、走り-ヌク、読み-キル、聞き-スマス、

逃げ-サル、…

3) 動作の不遂行に関するもの。

68) 書き-オトス、言い-シブル、判断し-カネル、^{注16} 買い-ソンジル、結婚

し-ソコナウ、寝-ソビレル、閉め-ワスレル、かけ-マチガウ、見-ア

ヤマル、呼び-チガエル、伸び-ナヤム、書き-ワズラウ、…

4) 動作の再履行、反復、習慣、技術などに関するもの。

69) 書き-ナオス、読み-カエス、走り-コム、行き-ツケル、書き-ナレル、

乗り-コナス、…

5) 動作の程度のはなはだしい様子をあらわすもの。

70) 書き-マクル、騒ぎ-タテル、遊び-マワル、ひびき-ワタル、言い-チラス、笑い-トパス、眠り-コケル、あきれ-カエル、煮え-タツ、読み-フケル、働き-スギル、…

6) ののしり、軽蔑の意味を含むもの。

71) いばり-クサル、出しゃばり-ヤガル、…

7) その他の動作の状態をあらわすもの。

72) 待ち-ワビル、話し-アグム、逃げ-マドウ、食い-ハグレル、聞き-アキル、読み-クラベル、死に-イソグ、出-オクレル、乗り-ステル、語り-アウ、…

8) この外、補助動詞に準ずるものとして難易等に関する言い方がある。

73) 読み-ニクイ、動かし-ガタイ、話し-ヅライ、聞き-グルシイ、住み-ヤスイ、間違え-ヤスイ、履き-ヨイ、…

以上の複合動詞に関して、いくつか注意しておくべきことがある。

ア) これらのものの中には一部使用にあたっての制限のあるものは、一語として、つまり語彙的な単位としての複合動詞となっている点。

74) 逃げマドウ、待ちワビル、行きワタル、見マワル、…

イ) また、次のように一部連体修飾成分として用いられる点。

75) 読みカケの本、高校出タテの女子社員、立ちヅメの毎日、働きスギの年齢、習いハジメのころ、出来ソコナイの息子、

これらのうち、〈名詞化〉したものについては、5で扱うことにする。

ウ) さらに語彙的な性格の強いものとしては、二次的な動作となって、第一次動作(前項動詞)の方向、程度、結果補語的な意味をあらわすものがいくつかある点。^{註17}

76) 連れモドス、殴りタオス、持ちアゲル、たたきオトス、打ちコロス

エ) 複合動詞の後項が動詞としての本来の意味が抽象化して、接尾辞的な要素となったものがある点。これには一般に一次的動作の程度のはなはだしい様をあらわすものが多い。

77) 飛びカカル、走りコム、いためツケル、静まりカエル、飛びツク
これらの中には生産性の高いものと、「遊びホウケル」「泣きジャクル」などのように生産性の低いものがある。後者は辞書の見出しなどでは、一語的な単位として扱われるのが普通である。

オ) 統語的な複合動詞の前項成分は、受身、使役、可能などの形式を含むことができるのに対して、語彙的な複合動詞ではこれらの形式は後項動詞においてしか、あらわれない。^{注18}

78) 読まれダス、書かせハジメル、なぐられカカル

教えアエル、吐きダサレル、買いカエラレル、呼びカケラレル

一般に複合動詞といっても種類もおおく、構造的にはいくつかの段階と性格がみられ、使用頻度においてもなお教育上、配慮すべき点も多い。日ごろ使用している動詞の約4割が複合動詞であるという調査報告もある。^{注19} 複合動詞はアスペクトのほか、動作・状況の描写に細かい意味をそえるものとして重要である。「溺れシヌ」「殴りタオス」のように二次的な動作が結果をあらわす場合もあれば、「乱れトブ」「かきマウス」のように一次的動作が主動詞の状態修飾的な性格をもつものなどさまざまである。加えて複合動詞のもつ多義的な性格一つまり、後項動詞の性格によって意味機能がことなるもの、例えば、〈～コム〉(書きコム/乗りコム) や〈～キル〉(噛みキル/読みキル) 等—にも注意する必要がある。

4. 語彙的な機能と連用形名詞

ここでは複合動詞を含めた動詞連用形の語彙的な機能と用法における、個別性と一般性(文法化)についてみていくことにしたい。

4. 1. 動詞の反復

先に、動詞連用形の反復が付帯的な状況を意味する用法について述べたが、反復構造が独立した語彙単位となったものもいくつかある。

- 79) 飽き飽きする、ほれほれする、懲り懲りする、浮き浮きする
 這い這いする、晴れ晴れする、冷え冷えする、撫で撫でする

以上は動詞語彙であるが、次のような形容動詞、副詞相当の語彙もある。

- 80) 延び延び、飛び飛び、別れ別れ、離れ離れ、散り散り、生き生き
 とぎれとぎれ、絶え絶え、重ね重ね、千切れ千切れ、休み休み
 抜け抜けと、伸び伸びと

- 81) a. 離れ離れの生活、生き生きとした表情
 b. 別れ別れになる、散り散りになる
 c. 重ね重ねお詫び申し上げます、伸び伸びと演技する

これらは同じ反復構造でも、「体をだましまし試合をする」や「休み休み仕事をする」のような慣用的な用法とも異なるものである。このほか、副助詞をともなって、動作、現象が続いて行われるさまを言い表わすことがある。これらも固定化した状況修飾句となっている。

- 82) a. 書きも書きた(論文)、揃いも揃って
 b. わきにわいた(試合)、待ちに待った(遠足)、よりによって
 c. 考えに考えたあげく、家を手離すことにした。

次の例は接辞的な語をともなった慣用的な語構成のものである。

- 83) 大荒れに荒れる、つるべ撃ちに撃つ、平謝りに謝る
前かがみにかがむ、男泣きに泣く、ひた走りに走る

この外、次のような同一動詞の連用形反復で、経過や状態を表す言い方、

- 84) a. まわりまわって(めぐりめぐって) やっと自分の番になった。
 b. 流れ流れて、追われ追われて
 c. 盛り上ってくる巨大な波が…磯に押し寄せ押し寄せてくる(四195)

d. 仕事をやりおえた彼の表情は満足感に満ち満ちていました。

などや、次の並列的な意味関係にある連語的副詞句もいくつかみられる。

85) 手とり足とり、手をかえ品をかえ、根掘り葉掘り、入れ代わり立ち代わり、山を越え谷を越え、国を捨て家族を捨て、…

4. 2. 動詞連用形名詞の意味的な分類

連用形名詞の語彙には連用形そのままの形から、複合名詞的な構造のものまで多様である。次は初級教科書に見られる一例である。

86) まちがい、見舞い、帰り、休み、晴れ、くもり、始め、終わり、…
東京行き、夏休み、お金持ち、落とし物、話し声、…

連用形は別名に「居体言」と言われるように、そもそも名詞的な性格をもつものと考えられるが、ここでは連用形の名詞的用法をとりあげる。西尾(1965)によれば、これらの名詞は次のようにほぼ8種類に分類される。^{注20}

- a. 動作・作用そのもの；泳ぎ、調べ、考え、滑り
- b. 動作・作用の所産・結果；包み、貯え、余り、集まり
- c. 動作・作用の主体；流し、すり、流れ、支え
- d. 動作・作用の客体；つまみ、雇い、写し
- e. 動作・作用の手段；はかり、はたき、はさみ
- f. 動作・作用の向けられる目標；こぼし、当て
- g. 動作・作用の行われる場所；通り、果て
- h. 動作・作用の行われる時間；暮れ、始め、終わり

これはまた、あとの名詞と動詞連用形との構成による複合名詞の分類にもほぼ適用される。これらの名詞は動作、物、所、人などの名付け的な性格や特徴的な働きをとりたてて表す点に、単なる名詞とは異なる性質が観察されるのであるが、他の要素と結合して連語的な構成をなすことも重要な機能としてあげられる。例えば「読み」という連用形はこれだけでは意味をなすには十分でなく、動詞、形容詞などとともに用いられることが多い。

87) 読みが深い、読みが浅い、読みが弱い、読みを外す、読みを誤る
次にこのような語構成をもつものについて見てみよう。

4. 3. 連用形名詞の機能

①動作性動詞が一度連用形名詞となり、さらにサ変動詞などをともなってもとの動詞へ、いわば〈先祖帰り〉するものがある。

88) ふるえる—ふるえ—ふるえがする

降る—降り—降りになる

伸びる—伸び—伸びをする (他動詞化)

引越す—引越し—引越し(を)する

この場合、頻度を表す数量詞成分とともにあらわれることがある。例えば

89) 不安を追い払うために瞬きを何度もしたが、それは彼の癖のひとつ
だった。(那29)

の例で「瞬きを何度もした」を「何度も瞬いた」ということはできない。

また、露出形があらわれる場合、普通は何らかの修飾語が必要とされる。^{注21}

90) a. 今日の中山は快調な走りを見せています。

b. 50メートルはまずまずの入りです。(水泳のラップタイム)

c. 京都らしい落ち着いたたたずまいを残している。

一方、「泣きを入れる」という慣用句から、露出形の特徴として次のような
〈変形〉があらわれることもある。

91) 「特別ルールは承知している。見失ったわけでもない」という福井審
判だが、「一番行って欲しくない所」と泣きも入った。(1990.6.11.

日本経済新聞)

このほか後続の動詞に「する(感じがする)」「見せる」「覚える」などの
感覚動詞があらわれる。これは元の意味は残しながらも新しい性質、個別
的な状態、現象の現れを明示する働きがみとめられる。これらは派生的な
動詞であると同時に、「機能動詞」と呼ばれる種類のものであろう。^{注22}

- 92) 衰えを見せる、震えが走る、伸びがある、飽きがかかる、誘いに乗る
望みをつなぐ、負けを喫する、狙いを定める、誘いをかける
区切りがつく、諦めがつく、酔いが回る、譲りを受ける
蹴りをいれる、詫びを入れる、泣きを入れる、焼きを入れる
許しを得る、おさえがきく、ゆさぶりをかける、動きが見られる
さしさわり（迷い、望み、借り、揺れ、照れ、含み…）がある
疲れ（遅れ、乱れ…）が出る、頼りになる／頼りにする
払いをすませる、まとまりをつける、疑いをもつ、なおしがきく
投げを食う、痛みを感じる、にぎわいを見せる

次のように迂言的な受身、使役、可能などの態をあらわすものもあれば、

- 93) 受身；扱いを受ける（扱われる）、みがきがかかる（みがかれる）
使役；怒りを招く（怒らせる）、笑いをさそう（笑わせる）
可能；おさえがきく（おさえられる）、頼りになる（頼れる）

さらには動詞成分とともに、アスペクトをあらわすものもある。

- 94) 飽きがかかる、疲れが出る、動きが起こる、払いをすませる
また、慣用句として、次のような言い方もみられる。

- 95) 思いもよらない、引けをとらない、負けを知らない、…

②次に修飾句の「底名詞」として用いられるものをみてみよう。これはつまり、連用形名詞の中では実質的な意味をともない、接続的成分として用いられるものである。次の例は「疑われる」「勧められる」という受身の立場が名詞的な修飾句となったものである。

- 96) a. Kは女子学生を刺し殺した疑いで、警察に逮捕された。

b. 友人の強い勧めで、A企業に転職することになった。

また、前の文内容をうけて文末述語の成分となるものもいくつかある。一般に「～という」ともない、内容説明の被修飾語となる。

- 97) a. いずれも万病に効くという触れ込みだった。

- b. まるで腫れものにもでもさわるような扱いだった。
- c. 試合前になると決まって腰痛が起こるという悩みがある。
- d. 友達から来週ゴルフに行かないかという誘いの電話があった。
- e. 宗印寺の神力水を飲むと勉強がはかどるといういわれがある。

③次に連用形名詞を伴ういくつかの語構成と機能についてみてみよう。まず、複合形容詞を構成するものとして次のような言い方がある。

- 98) <生き> がいい・悪い／持ち、出、閉まり、集まり、聞こえ、眺め
<覚え> が速い・遅い／点き、治り、帰り、ものわかり、流れ
<詰め> が厳しい・甘い、<押し> が強い・弱い

これらは性格、状態の程度などをあらわす言い方で、いずれも動詞の意味を強く残しているということで、漢語名詞にはない意味特徴がみとめられる。一方、<動詞連用形名詞／の／名詞>の形で、<慣用的な修飾句>となったものもいくつかある。

- 99) 恨みの雨、晴れの受賞、救いの神、憩いの場、空きの時間
頼みの綱、揃いの衣装、育ての親、通しの番号、悩みの種
疑いの目、急ぎの用事、攻めのピッチング、粘りの5連勝、…

動詞連用形名詞には、相撲の「決まり手」などに見られるように、専門的な名称として用いられるという特徴も一方ではあるが、と同時に、

- 100) ハンドルの遊び、梅雨の走り、技の切れ

などのように、派生的な意味をもつものもいくつか見られる。

④そのほかの用法として、動詞連用形がそのまま、副詞、接続詞になったもの、副詞語尾とともに用いられるものなどがある。

- 101) 思い切り、くりかえし、引き続き、とり急ぎ、折り返し、および

- 102) ためしに、ちなみに、たわむれに、ならびに、こ刻みに、こ走りに
通りすがりに、立て続けに

- 103) 延べ五千人、五百とび二円、三掛けで売る、数えで四十歳

市川海老藏改め団十郎、お一人様一点限り、…

4. 4. 複合動詞の連用形名詞

①複合動詞の連用形名詞には同じ複合動詞成分でありながら、名詞の形になるものとならないものがある。

104) a. 見通し、書き出し、座り込み、売り上げ、…

* b. 走り通し、泣き出し、乗り込み、書き上げ、…

また、反対に連用形名詞形はあっても、それに対応する複合動詞がないもの、つまり名詞から複合動詞に還元できないものも多くある。いわば、動作そのものより、行為の「名付け」をとりたてたものであろう。

105) 立ち読み—*立ち読む、つくり笑い—*つくり笑う

言いがかり—*言いがかる、殴り書き—*殴り書く

これらを〈動詞化〉するには、

106) 言い逃れする、寝だめする、建て増しする、思い出し笑いする

おきざりにする、呼びすてにする、寝返りをうつ

病みつきになる、かかりあいになる、寝つきがいい／悪い

のようにあとに〈～をする〉などの動詞成分を必要とするが、そこには先に述べた一般的な複合動詞と語彙的な複合動詞において、相互の名詞化、動詞化が個別的か、一般的なものかといった規則性がとりたてて存在するわけではなく、したがって、学習者は頻度の高い語彙を個別的に覚え、運用していくということになる。

②一方、「売り切れ」「大売り出し」などのような個別的な連用形名詞という形態でなく、連用形に動詞連用形がいわば接尾辞的についたものがある。前項動詞を変項動詞としてもつ、3. 2. でみた複合動詞から頻度が高いと思われるものをみると、

107) 〈出来〉 立て、〈働き〉 すぎ、〈習い〉 始め、〈買い〉 そこない

〈かけ〉 忘れ、〈書き〉 まちがい、〈とり〉 なおし、〈見せ〉 合い

〈読み〉かけ、〈走り〉くらべ、…

などがあげられる。また、複合動詞の意味が転移したものとして、

108) 駆け出す—駆け出し、踏み切る—踏み切り、さし入れる—さし入れ
などがあるが、これらも特別な名付け名詞となったものである。^{注23}

③類似的、または反意的な意味の動詞連用形の並列構造が複合名詞化したものがいくつかある。名詞、または動詞成分となることができる。

109) 読み書き、開け閉め、見聞き、飲み食い、のぼりおり、貸し借り
売り買い、見え隠れ、逃げ隠れ、乗り降り、浮き沈み、上げ下げ
出入り、立ち居、生き死に、やりもらい、好き嫌い、…

110) 漢字の読み書き、飲み食いにかかる費用

見聞きしたことを書く、階段をのぼりおりする

この中には単に並列的な意味〈Xこと／Yこと〉でなく、動作反復的な意味をもつものもみられる。これにも名詞、動詞成分となるものがある。

111) a. 犯人の姿が見え隠れする

b. この業界は浮き沈みがはげしい

4. 5. ていねい語の語構成

次に動詞連用形が美化語の接頭辞を付して、ていねい語として用いられる場合の語構成についてみてみよう。

①単独名詞となって、ある実体を指し示したものがある。これらは普通、連用形のみで用いることはない。

112) お守り、お供え、お飾り、おしぼり、お手伝い、お焦げ、お返し
おさがり、おこぼれ、お見舞、お通し、おにぎり、おまけ
お手伝いさん、おしゃべり

これらは〈モノ〉、〈ヒト〉、〈コト〉などの名付け、指示名詞となり、さらにあとの実体をあらわす名詞と複合語を構成するものもある。

113) お笑いタレント、お抱え運転手、お忍び旅行、…

②〈スル〉をつけた連語的な動詞として用いられるものがある。

114) 願ひする、おたずねする、お越しになる、お見えになる
お開きになる、お流れになる、お待たせする、お騒がせする
お隠れになる、お呼び立てする、お近づきになる、お見受けする

③また、次のように〈迂言的な受身〉をあらわすものもある。

115) お叱りを受ける—叱られる お呼びがかかる—呼ばれる
お招きにあずかる—招かれる お返しを食う—返される

④述語化したものとして、次のような用法がある。これらは「挨拶言葉」のほかに、単独で指図、命令、要求などの表現述語となるものである。

116) おやすみ、お帰り、お成り、おしまい、お願い、おかわり、お黙り
お待たせ、お待ちかね、おすわり、おあずけ、…

⑤〈ナク〉をともない、連用修飾句として、またはそのまま独立した副詞句として用いられるものがある。

117) お構いなく、お忘れなく、お見逃しなく

⑥単独、または複合語で掲示的な用法として用いられるものもある。

118) お知らせ、お申し込み、お問い合わせ
停電のお願い、水道工事のお願い、募金のお願い

⑦〈オ～ニナル〉の述語部分が〈デス〉によって代用される場合があるが次のような問いかけ文、報告文に用いられることが多い。

119) お勤めですか、お住まいですか、お急ぎですか、お使いですか、…
社長は今晚9時にお帰ります、課長がお呼びです、…

⑧一般に連体修飾句として用いられる。

120) お乗りの際、お買い漏らしのないように、お確かめの上、
お引越しの由、切符をお持ちの方／お持ちでない方

⑨文末に「中止形」成分として、あらわれることがある。

121) 失敗するかもしれないけど、うまくできたらおなぐさみ。

- 122) 翌日はホテルの受付で、出来上がったドレスをおもとめに。
 123) 今回登場の賃貸し物件は首都圏での住宅購入を諦めた中堅所得層のサラリーマンの方々におすすめです。

5. 複合名詞の構造について

ここでは複合名詞の中でも、動詞派生形の連用形名詞と名詞との構成によるもの、さらに他の名詞との構成による拡大複合名詞句をとりあげる。まず、動詞由来複合名詞は、動詞連用形の前項または後項の位置により、大きく二種類（A、B）に分類することができる。

5. 1. 動詞由来複合名詞（A）

動詞連用形が名詞の前について複合名詞をなすものも、複合語の中では語例が豊富である。これには、例えば、

- 124) a. あわて者、考え事、持ち物、…
 b. 売れ筋、変わり身、忘れ形見、…

のようなやや一般化に近いものと、ほぼ個別的な語構造のものがあるがこれらの前項動詞は、後の中心語である名詞の内容や状況を修飾する意味をもつものである。3. 1. で述べた「〈見〉ごろ、〈買い〉どき、〈ふんばり〉どころ」なども一般化に近いものであった。ここで一般的、個別的といった分類は規則的な根拠のあるものではないが、比較的、使用頻度の高いものとその【動詞】例には次のようなものがある

- | | |
|---------------------|------------------|
| 125) 一人 [待ち、たずね、釣り] | 一役 [聞き、引き立て、立ち] |
| 一場 [置き、遊び、やり] | 一先 [行き、送り、届け] |
| 一子 [売り、捨て、教え] | 一气 [のり、勝ち] |
| 一主 [飼い、雇い、持ち] | 一者 [なまけ、裏切り、あわて] |
| 一賃 [貸し、借り、預け] | 一分 [言い、戻し、受け取り] |
| 一薬 [ぬり、つけ、飲み、はり] | 一性 [飽き、荒れ、堪え、照れ] |

- | | |
|-------------------|------------------|
| 一足 [急ぎ、駆け、出、逃げ] | 一道 [使い、帰り、抜け、回り] |
| 一話 [立ち、作り、別れ、笑い] | 一水 [たまり、わき、飲み] |
| 一幅 [上げ、下げ、振り] | 一側 [受取り、乗り、買い] |
| 一言葉 [ほめ、はやり、書き] | 一時間 [待ち、持ち、空き] |
| 一上手 [話し、聞き、くどき] … | |

これらの接尾辞の中には一部濁音化するものもある。また、連体修飾構造の場合と意味的な比較が教学上、しばしば問題となる。つまり、「食べもの／食べるもの」のように一般的な意味規定の指示名詞と、個別的な意味との対照である。一般的な特徴に類するものでは、

126) <売り> 手、<泣き> 声、<笑い> 顔、<泣き> まね、<寝> 癖
 などがあり、主体的な行為の名付け、性格をあらわしている。これを、

127) a. となりの部屋から泣き声がする。(不特定、一般的性質)

b. 子供の泣く声がいつまでも続いていた。(特定、個別的性質)
 で比べると、名づけ、指示対象の性質、特徴の違いがわかる。また、

128) a. 一人で悩むことはない／彼には悩みごとがある。

b. これは私が食べるものだ／あそこは食べるものが安い
 のように、「特定」のものは構文の成分におさまることができるが、「不特定」のものは語彙単位としての、一般的内容をあらわしている。一方、これら語構成の中には、ヴォイスとのかかわりをもつものもみられる。

129) 捨て子／*捨てられ子、教え子／*教えられ子、*憎み子／憎まれ子
 *嫌い者／嫌われ者、笑い者／笑われ者、…

次に、接辞<モノ／コト>についてみてみよう。まず、<モノ>では動作の結果、対象として、ある特定の名づけをあらわすことがある。

130) a. 塗りもの、織りもの、仕立てもの、揚げもの、焼きもの、…

b. 食べもの、飲みもの、読みもの、乗りもの、売りもの、履きもの
 この中には動詞化したもので、その動作種類を明示する言い方がある。

131) 書きものをする、縫いものをする、編みものをする、調べものをする
炊きものをする、かたづけものをする、忘れものをする、…

さらに〈慣用的な評価づけ〉として次のような言い方がある。

- 132) a. くわせもの、きれもの、変わりもの、怠けもの、のけもの、…
b. 見ものだ、考えものだ、困りものだ、儲けものだ、つきものだ、…
c. さらしものになる、わらいものになる、食いものにする／される
d. 使いものにならない、比べものにならない、…

これらは、いわば実体の〈モノ〉の語義を離れて、評価、判断の基準を示す働きがある。これに対して、〈コト〉には次のような意図的な動作、心理的活動をあらわす言い方がある。

133) a. つくりごと、悩みごと、祝いごと、かくしごと、作りごと、遊びごと、頼みごと／頼まれごと、…

b. 真似ごとをする、考えごとをする、賭けごとをする、願いごとをする、争いごとが起こる、泣きごとを言う、笑いごとではない
〈コト〉も〈モノ〉と同じように個別的な語彙として、特定の〈名付け〉という意味的な特徴がみられる。

5. 2. 動詞由来複合名詞 (B)

次に動詞成分が名詞の後に位置する複合名詞であるが、これについては玉村(1985)にくわしい分類がある。これは〈N〉と〈V〉の統語的關係^{注24}にもとづくもので、代表的な語構成としては次のものがある。

a) [主格] (〈N〉ガ〈V〉スル)

— 値上がり、日暮れ、崖くずれ、地すべり、雪どけ、肉離れ

b) [対格] (〈N〉ヲ〈V〉スル)

— 絵かき、金持ち、魚つり、種まき、湯わかし、穴掘り、野菜炒め

c) [道具格] (〈N〉デ〈V〉スル)

— 水遊び、鉛筆書き、石造り、鉄板焼き、バター炒め、手編み

d) [帰着格] (<N> ニ <V> スル)

—現地入り、里帰り、人任せ、手ごたえ、歯ざわり

e) [場所格] (<N> デ/ニ <V> スル)

—川遊び、前書き、東京育ち、会社勤め、腹巻き、野放し

f) [原因/理由格] (<N> ノタメニ/デ <V> スル)

—時差ボケ、夏やせ、日焼け、衝動買い、暑気当たり、やけ食い

傾向としては、この動詞成分が後にくる複合名詞 (B) の、複合語にしめる割合が最も多いようである。その中でも、動詞連用形が(準)接尾語的な成分のようにして、名詞などにくっつき、ある種の条件の有無をあらわすものがある。次に使用頻度の高いと思われるものとその [語] 例をあげてみよう。

- 134) 一有り [保険、昇給、特別手当] 一入れ [小銭、定期券、書類]
 一付き [車庫、三食、クーラー] 一入り [ビタミン、パック、袋]
 一込み [消費税、管理費] 一抜き [税、残業、朝食、わさび]
 一向き [学生、女性、独身] 一向け [子供、外国、夏]
 一代わり [親、灰皿、教室] 一扱い [子供、特別、人間]
 一越し [ガラス、窓、ドア、肩] 一生まれ [四月、都会、九州]
 一まみれ [汗、血、どろ] 一まじり [溜息、粉雪、白髪]
 一帰り [仕事、朝、旅行] 一寄り [南、右、道路]
 一書き [ペン、手、宛名、礼状] 一読み [音、訓、拾い、飛ばし]
 一沿い [街道、道路、川] 一伝い [岩場、屋根、石]
 一笑い [作り、ばか、物] 一泣き [男、くやし、もらい]
 一終い [食べず、寝ず] 一張り [ガラス、タイル、板]
 一済み [内装、消毒、検査] 一通り [時間、約束、予想]
 一さがし [部屋、仕事、荒] 一連れ [家族、子供、女、学生]
 一遊び [火、水、砂、夜、川] 一祝い [合格、入学、卒業、結婚]

- 詰め [箱、ビン、400字] -絡み [金銭、保険金、政治家]
 -掛かり [医者、親、芝居] -暮らし [隠居、一人、都会]
 -送り [検察庁、会計課] -乗り [馬、自転車、船] …

これらも複合語の中では一般に「サ、カ、タ、ハ」行の音便が濁音化するという特徴もみられる。以上のほか、比較的生産的なものとして、〈～行き〉、〈～止まり〉、〈～育ち〉、〈～使い〉、〈～弾き〉、〈～よけ〉、〈～いじめ〉、〈～売り〉、〈～切り〉、〈～休み〉、〈～騒ぎ〉、〈～逃れ〉、〈～漏れ〉などがあり、前項名詞の性格によって、動作の行われる場所や行為者、または機能、現象、行為などの名づけがあらわされる。なお、以上二種類の動詞由来複合名詞のあるものは、あとの成分とともに〈動詞化^{注26}〉したり、修飾語となることも多い。

135) 置き手紙をする、張り紙をする、帰り支度をする…

- 子供扱いする、声変わりする、クラス分けする、品定めする…
 息切れがする、拍子抜けがする、心待ちにする、ねらい撃ちにする…
 缶詰めになる、ぶち壊しになる、宙づりになる、命とりになる…
 子供連れの客、金銭絡みの選挙、使用済みのリボン、…

5. 3. 接尾辞的用法について

動詞連用形名詞の中には、数量詞に接尾辞のようについて、ある特定の動作の頻度、状態の程度や単位をあらわすものがある。これも一種の数量詞的な複合名詞をなすグループで、よく使われるものには、

- 136) -抱え、折り、押し、突き、振り、くくり、すくい、回り、つかみ、にぎり、ひねり、かき、切れ、刺し、しめ、めぐり、飾り、…
 三かかえもする荷物、三折りにする、ひとつかみもない、…

のように「ひと／ふた／み…」のように数えるものや、単に、

- 137) -掛け、抜き、連れ、乗り、余り、過ぎ、増し、引き、建て、払い、おき、当たり、とび、付け、がらみ、…

のように数量、時間、期間の幅などをあらわすものもある。動詞的な言い方を計量的に単位化したもので、次のような例が多くみられる。

- 138) 十回払いで買う、全2割引セール、二日おきに習う、三人乗り、10人抜き、9時5分すぎ、5階建てのビル、24ヶ月払い、30秒刻み、10分遅れ、二枚重ね、三日がかりで仕上げる、三人掛けの椅子、一日歩き、四十がらみの男、…

その一つである、〈ひと～する〉は「ちょっと～する」という意味で、

- 139) ひと〈働き〉する〔頑張り、踏張り、休み、眠り、走り、もめ〕などの言い方があるほか、次のような強調的な言い方にも用いられる。

- 140) ひと押しもふた押しも努力が必要です。

ひとまわりもふたまわりも体重が違う。

5. 4. その他の動詞複合語彙

その他の動詞連用形を含む複合語彙には次のようなものがあり、中には〈～スル〉をともなつて動詞化するものもあるが、いずれも生産性の高い語構成とはなっていない、個別的な語構成である。

- ①形容詞（語幹）／動詞連用形；

高飛び、深追い、悪酔い、うれし泣き、こ走り、長生き

- ②動詞連用形／形容詞（語幹）；

望み薄、切れ長、取れ高

- ③副詞／動詞連用形；

よちよち歩き、きりきり舞い、ちょっと見、ポイ捨て

- ④形容動詞（語幹）／動詞連用形；

馬鹿さわぎ、無理じい、貧乏ゆすり

- ⑤動詞連用形／形容詞；

寝苦しい、聞き苦しい、蒸し暑い、忘れがたい、まわりくどい
打たれ強い、ねばり強い、走り強い、慎み深い、誇りたかい

照れ臭い、恐れ多い、押し付けがましい

⑥否定接頭辞／動詞連用形、動詞連用形／否定接尾辞；

不慣れ、不屈き、不似合い、不入り、不釣合い、不向き、不揃い
頼りない、限りない、ゆるぎない、変わらない、間違いない

⑦名詞／動詞連用形／副詞語尾（複合副詞）

暇つぶしに、手放しで、腕試しに、力まかせに、苦しまぎれに
このほか、「下 [洗い、書き、こしらえ、読み]」、「時間 [稼ぎ、つぶし、
切れ、待ち、割り]」のように、あとに動詞連用形がくる接頭語的なものが
いくつかみられるが、ここでは省略する。

5. 5. 「拡大複合名詞句」について

動詞連用形を含む複合名詞が、さらに他の名詞などと結合してあらわれ
るような、「複合名詞句」があるが、これらは特に案内書き、掲示用語、な
どによく見られる。例えば「自動読みとりタイプ」というのは商品のバー
コードを読みとる操作の簡単なレジスターのことを知らなければ、「意味」
は分かっても「実体」は分らない。新しい製品などが出るたびに、このよ
うな機能表示を意味する〈名付け名詞〉が生産される。「自動巻き戻し」「自
動霜取り」「自動水切り」「油落とし」「糸くず取り」…など、多くの「売れ
筋商品」の広告、宣伝文句に見られるように、造語力が豊富である。この
ような複合語彙の理解も進んだ段階では必要になってくる。

また、他の成分との語彙的な結合でありながら、表現形式としては文の機
能をもつものがある。例えば、

- 141) 持ち出し可、持ち込み禁止／不可、取りはずし自由、受け付け開始
鮎釣り解禁、水漏れ防止、ペンキ塗りたて注意、危険物取扱い注意
子供自転車飛び出し注意

のような表示、掲示、また次の新聞の見出しに見られる言い方である。

- 142) 張容疑者中国に引き渡し

東独ドイツ連合、大連立を申し入れ

ココムリスト年末をメドに見直し

幼い姉妹が焼死、なべ火にかけ母寝込み

この中には〈連用形止め〉が一種の省略文としてあらわれることも多い。

143) 早朝の出足に乱れ (が出る)

金満ニッポンにかげり (が見える)

橋本選手、世界選手権にはずみ (をつける)

構造協議、日米、中間評価へ詰め (を急ぐ)

東証株価、一時2万8000円割れ (が出る)

「社会民主主義」結集を、社党大会で土井氏訴え (を起こす)

また、次のように、見出しなどでは複合名詞か助詞が省略されたものなのか、学習者にはわかりにくいと思われるものがしばしば見うけられる。

144) 資格偽り申し込み、法案めぐり混乱、壁たたき「助けて」

警官さされ重傷、模様ながめのかまえ、…

このような例も、文の前後関係で理解させることが必要となる。

5. 6. 結合と語義の関係

さて、以上述べた動詞連用形を含む複合語の構成を考えると、接辞、語基の位置の問題のほか、語彙の系統的認識と同時に個別的認識が求められる。二つの語結合は本来、恣意的なものではなく自然に内発的に形成される可能性をもち、それぞれの成分は互いに他を志向する必然性を有している。しかし、新しい複合語の中にはそのような「結合契機」に依存しない、自由な結合も多くみられる。例えばある広告にあった「うさぎ読み」というような本の読み方は「うさぎ飛び」の〈発想〉、〈連想〉、〈比喩〉から生まれたものだろうが、一方では「とばして読む」という意味的な〈契機〉から作られたものであることも想像される。いわば両面からの認識が語義を明らかにする。このように、学習者に対しても、これらの造語の規

則性といったものはなほだ提示しにくいわけであるが、頻度の高いものに準じて、その意味関係の近さにおいて、生産されるという認識は重要であると思われる。^{注28}

6. 接続と文末成分

動詞連用形名詞の一部には、その動詞本来の実質的な意味を失ない、または抽象化して、いわば「形式名詞」となったものがある。^{注29}ここでは文中の接続的な成分と文末の述語成分として用いられる場合をみていきたい。

6. 1. 接続的な機能について

1) 従属文を直接受けるものとして、連用形名詞派生の接続助詞、または後置詞に相当する言い方がある。

- 145) a. 生きている限り、人間は悩むものです。
b. 社交的な奥さんでない限り、できるだけいつも夫婦で行動して…
c. 高給を出す代わりに、しっかり働いてもらいたい。
d. これから先生の教える通りに練習してみなさい。
e. 車をよけようとした弾みで、足をくじいてしまった。

<～限り>、<～通り> は、次のように文末成分になることもある。

- 146) a. 四月の菜の花の匂いはかぐわしい限りです。
b. やっぱりだめでしたか、わたしの言った通りでしょう。

2) 連用形名詞が文中で、<XヲYニ> という形に類して用いられる場合がある。これも後置詞的な用法に準ずるものである。

- 147) a. 司会者のヒントを頼りに“秘宝”をさがす。
b. 今月いっぱいを限りに調査が打ち切られるもようだ。
c. 僕は父の言葉を精神的な支えとして生きてきた。
d. 部長が出かけたのと入れ違いに電話がかかってきた。
e. クーポン券10枚とひきかえに、一回抽選ができます。

f. 上野公園をはじめ、都内各地は家族連れで賑わいました。

6. 2. 文末的な機能について

文末にあらわれる形式的な連用形名詞の中にも、一種の名詞述語文のタイプと考えられるものがいくつかみられる。

1) 〈～ノハ～ダ〉形式の倒置文において、ある連用形名詞は述語成分として結論の叙述をあらわす場合があり、次のような表現形式がみられる。

148) a. 早く来るようになったのは努力しようとする気持ちの現れか。

b. 食べるという行為は生きていることの証である。

c. 血をみたとはいえ、少し飲みすぎた祟りだというぐらいに、…

2) モーダルな意味をもって文末の名詞述語となり、話し手の説明的な特徴をあらわすものとして次のような表現形式がみられる。

149) a. 野党は徹底的に審議を遅らす構えだ。

b. この雨は明日の朝まで続く見込みです。

c. 若いころから慣れさせようという狙いだ。

d. 両親に死なれて死にたい思いだった。

e. ずいぶんくやしい思いをしたのですね。

f. 黄色い手の甲がとても不気味な感じだった。

3) 附随的に〈アル〉、〈ナイ〉、〈スル〉、〈ナル〉、〈イイ〉などの形式動詞、形容詞をともなう述語成分を形成するものがある。

150) a. となりの部屋でさんまを焼くにおいがする。

b. それは乾ききっていて、軽石のような感じさえた。

c. おかげさまで来月の初めに開店の運びになりました。

d. 困ったときにはお互い譲り合うという取決めになっている。

e. このドアは煙が出ると自動的に閉まる仕組みになっている。

f. 突然の不況で、工員を大幅に解雇する騒ぎになってしまった。

g. 今日働けば今日、明日、食っていく足しにはなるだろう。

この周延的な表現として、可能性、傾向、頻度などに関する推量的な意味を含むものがいくつか見られる。いずれも説明文の中に表れることが多い

- 151) a. 事態を解決するどころか、かえって悪化させるおそれが大きい。
b. そんなこと、僕は何も言った憶えはありませんよ。(白261)
c. おそらく誰にもたよる当てがないだろう。
d. 今になってみると結論を急ぎすぎたうらみもある。
e. 専門家の間には調査を公表したがる向きも多い。

4) 既に4. 5. で述べた一連の機能動詞的な構造が、文を直接的、または間接的に受けて文末にあらわれる言い方がいくつか見られる。

- 152) a. コアラを自然破壊から守ろうとする動きが起こった。
b. 学生達は各地で政府に反対する構えを見せている。
c. 今度の事件でも第一相銀が関与した疑いがもたれている。
d. 澄男は男が余りにも近いところにいることに驚きを感じた。
e. 一日はやはり24時間であることに変わりはない。
f. 今回の発掘で九州に巨大文化圏があったことが浮き彫りにされた。

7. 終わりに

- 153) * a. 私の趣味は泳ぎです。
* b. 今シャツを洗い中です。
* c. あの人はよく私をいじめします。
* d. 仕事の始まりはとても困りました。
* e. 私は500メートル走りに参加しました。

動詞連用形を使ったこのような誤用例は、学習者にしばしばあらわれるものである。実用的な文法に依存することの多い外国人学習者にとっては動詞連用形を名詞と見なしたり、活用形の部分を単純に変項部分と見なして、他の動詞を入れ替えて用いる傾向があり、そうしたことがこのような

不自然な日本語の運用をもたらしている点もよく知られていることである。従来、こうした活用語彙の意味、文型との係わりについて、あまり教学上の注意が払われてこなかったように思われるが、連用形についても個別的、一般的な機能を整理してみる必要がある³⁰。

また、動詞連用形は複合動詞や複合名詞を構成する重要な要素ともなっており、語彙教育にしめる意味も大きい。例えば、「日本たたき」「いじめ」「老人ボケ」「やらせ」「いやがらせ」など、今日の社会においては新語、流行語のように、積極的に生産されたりしている。「核ぬき」「核ならし」などにみられるような、意味の規定を真に理解するためにも、それぞれの語源や使われる背景とともに、語結合の構造についての正しい理解と運用がのぞまれるのである。

近年、語彙研究と構文との相互の関わりについて、意味と機能の面から様々な関心もたれているが、この動詞連用形についても多くの問題を提供しているように思われる。動詞の活用形と文型は古くて新しい問題である³¹。文型的な用法と語彙的な用法とのかかわりも、活用形の意味と機能の本質を考えるうえで必要になってくるわけである。今回は用例の数と時間的な制約から、必ずしも連用形のさまざまな機能を観察し、記述しえたわけではない。とくに動詞連用形による複合名詞の統語的な分析については詳しくふれることができなかった。とりあえず、実際の使用教科書において、どのような形態でどのような意味で用いられているか、話し言葉などもふくめて、検討していく必要があると思われる。

〈注記〉

なお本文中の略記の用例は次の資料によった。

白（渡辺淳一『白き手の報復』新潮文庫1986）、メ（吉村昭『メロンと鳩』講談社文庫1989）、那（梶山季之『那覇心中』講談社文庫1990）、砲（三木

卓『砲撃のあとで』講談社文庫1976)、瀋(水上勉『瀋陽の月』新潮文庫1989)、ス(遠藤周作『スキヤンダル』新潮文庫1990)、四(石川達三『四十八歳の抵抗』新潮文庫1962)、その他、日本語の教科書、新聞、広告コピー、ポスター数点

[注]

1. 日本語教育ではたとえば、「とられやすい」の「とられ」は受身形の連用形とよぶように、それぞれの活用変化も形態変化も〈～形〉という言い方をしている。動詞の「マス」形だけに限らず、中級以降ではこのような「複合的な」後続句の指導も重要な項目となる。
2. 鈴木重幸(1972) pp.192~195
3. 文例はいずれも『日本語表現文型中級』(筑波大学)からのもの。
4. 時、場所、主格にあたるもの、目的格にあたるものなど色々な要素が具体的に限定されている場合、ていねい語の要素が現れる自由さの程度が比較的大きい傾向がある。南不二男(1987) pp.121~123
5. 「行きますです」「買いましたと思います」なども教科書では非文扱いとされるが、「です」や「思います」を話し手のていねいな要素が文末に付加されたものと考えれば、日常的に観察されるものである。
6. このような第一中止めと第二中止めの用法の違いについては、文献において詳しく論究されている。
7. 〈サエ〉は〈Vサエスル〉では前項動詞は〈スル〉とともに動詞成分を形成しているが、「痛みさえ感じない」のような句構造では、動詞連用形は名詞に転成したものである。
8. 文法的に間違いでなくても、「先生はこの本が読みたいですか／お読みになりたいですか」や「先生、こちらにお入りくださいませんか」などの言い方が、一般的に目上の聞き手に対して適確でないことも、指

導上の注意点の一つである。

9. 「打ちに出る」「起こしにかかる」のような、アスペクト相をもつ言い方の場合は後項動詞は主動詞ではなく、補助動詞的な性格をもつ。また「課長に飲みみに行くの」に誘われた」のように、連用形名詞となったものもある。これは一種の省略文とみなされる。
10. 形容詞の場合は「高そうもない」よりは「高くなさそうです」が一般的であるが、このような同一の文型において動詞構文と形態上の違いが見られることについても注意が必要である。
11. <次第> は「…行く次第です」「行き次第、…」のように動詞終止形にも連用形にもつくが、それぞれの意味的なあり方は異なっている。
12. <がち> の前には「雨がち」「病気がち」など特定の名詞のほかはほとんどの動詞連用形がつくが、「夏になるとお腹をこわしがちです」「雨の降る日はかさを忘れがちです」のように、一般にそれを成り立たせる条件が不可欠である。
13. このほか「お～致します」「お～賜ります」「お～預ります」などの敬語表現が見られる。
14. 統語的特徴というのは、この場合の接尾辞が動詞連用形と比較的自由な結合にあるものをさす。この中には動詞のほか「塩加減、風邪気味、水っぽい…」など、名詞との合成語も存在することから、ある動詞連用形は名詞としての修飾機能を有することが考えられる。
15. 「方」も「*買っておき方」のように補助動詞との構成にはあらわれにくい。森山 (1988) pp.34~44
16. <カネル>、<キル> も「待ちカネル」「貸しキル」などは語彙的な構成である一方、文末においては文型的な項目でもある。また学習者には「話すのが間違う／話して間違う／話し間違う」のような誤用例も見られるが、これは学習者の母語におきかえた場合、補助動詞、複合動

詞的な概念よりも二つの動詞が対等な関係にあるとの認識にもとづく干渉と思われる。

17. この場合、動詞の〈テ〉形と同様のレベルで用いられることがある。
- a. 案内状を破り棄てた週末、彼女は実家の親類に不幸があって、…
(ス32)
- b. 「こちらにお送りしましたが、葉書きです」
「ああ、破って棄てたよ。もちろん」 (ス43)
- b. は a. にくらべて、動作行為の手段が具体的にとりたてられる。このような例としてはほかに「見回る／見て回る」「遊び暮らす／遊んで暮らす」「たずね歩く／たずねて歩く」などに見られる。
18. 森山 (1988) pp.44~55
19. 森田良行 (1976)。なお、学習上、基本的なものでは〈～始メル〉、〈～終ワル〉、〈～続ケル〉、〈～間違ウ〉、〈～ナオス〉、〈～比ベル〉、〈～合ウ〉、〈～ニクイ／ヤスイ〉などで、ほぼ提出段階は決まっているのが普通であるが、なお効果的な分類、提示が望まれる。また、補助動詞の性格により、全体としての複合動詞の意味に違いが見られるものもある。例えば「買いかえる」は①古いものを新しいものと交換して買う、②古いもののほかにさらに新しいものを買う、③古いものを始末して新しいものを買う、④気にいらないので買った先でとりかえてもらう、などの状況が考えられる。その他、類意的なものとして「追い越す／追い抜く、追い払う／追い出す」などがある。
20. これらの名詞はある種の機能をあらわす働きももつもので、とくに専門的な道具、工具などの名づけに多い。
21. 鈴木 (1985) による。
22. 機能動詞については村木新次郎 (1979) を参照。
23. 複合動詞連用形名詞の中にも、「買いおき／買いだめ／買いしめ」

- などのように類似的な表現がみられるものには注意が必要である。
24. このほか、移動格、奪格、共同格、引用格、基準格などとの動詞結合のものが全部で13種類あげられている。玉村（1985）pp.45～。また並木（1988）では、動詞連用形と名詞の結合により、①主語と動詞から成る型②動詞と直接目的語から成る型③動詞と副詞的用法の名詞から成る型、の3種類に大きく分類している。
 25. 並木（1988）参照。
 26. 「何を食べますか」—「野菜をいただきます」のような誤用が見られるが、これは「野菜炒め」「ゆでたまご」も「野菜を炒める」「たまごをゆでる」も同じ語形（例えば中国語話者の場合、炒菜、煮雞蛋のように）によるものであろう。このほか、複合語の形態はわかっているが、学習者の中には「捨てるもの」「人間違い」といった誤用例が見られる。前者は動詞を変項部分と見なしたものの、後者は複合語の「不整合」によるものであろう。
 27. 玉村（1987）による。
 28. 「(バレーボールの) レシーブのとき見合いをした」、「社長から肩たたきをされた」、「物価の上昇はうなぎのぼりだ」のように、派生的な意味や比喩的な慣用句として用いられる語彙表現についても、当然説明が必要である。
 29. この種の「形成名詞」については田中（1990）で言及したことがある。
 30. 最近の辞書の意味記述では『現代国語例解辞典』（小学館）のように慣用度の高い複合動詞例や、接辞的成分との語構成をあげているものがいくつか見られる。
 31. 例えば文献19.20など。ただし小論では、構造的な分析よりは教育的な視点からの考察にとどまることになった。

[参考文献] (順不同)

1. 時枝誠記 (1950) 『日本文法口語編』 岩波全書114 岩波書店
2. 阪倉篤義 (1966) 『語構成の研究』 角川書店
3. 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』 大修館書店
4. ——— (1987) 『敬語』 岩波書店
5. 西尾寅弥 (1965) 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』
43 国語学会。『現代語彙の研究』(1988) 明治書院に所収
6. 奥津敬一郎 (1975) 「複合名詞の生成文法」『国語学』101国語学会
7. 鈴木康之 (1985) 「連語の構造に対しての複合語の役わり」『大東文化
大学紀要』20 大東文化大学
8. 森山卓郎 (1988) 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
9. 森田良行 (1978) 「日本語の複合動詞」『講座日本語教育14』早稲田大
学語学教育研究所。『日本語学と日本語教育』凡人社 (1990) に所収
10. 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」日本語講座第4巻 鈴木孝夫編『日
本語の語彙と表現』 大修館書店
11. 教科研東京国語部会・言語教育研究サークル編 (1964) 『語彙教育—そ
の内容と方法』 麦書房
12. 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 麦書房
13. 言語学研究会・構文論グループ (1989) 「なかどめ—動詞の第一なかど
めのばあい—」『ことばの科学3』言語学研究会編 麦書房所収
14. 玉村文郎 (1985) 『語彙の研究と教育(下)』(日本語教育指導参考書12)
国立国語研究所 大蔵省出版局
15. ——— (1988) 「複合語の意味」『日本語学』5月号 明治書院
16. 並木崇康 (1988) 「複合語の日英対照—複合名詞・複合形容詞—」『日
本語学』5月号 明治書院
17. 村木新次郎 (1982) 「機能動詞をめぐる」国立国語研究所研究報告3

秀英出版所収

18. 田中寛 (1990) 「モーダルな名詞—接続性と述語性—」『日本語学科年報12』 東京外国語大学外国語学部日本語学科 (印刷中)
19. 影山太郎・柴谷方良 (1989) 「モジュール文法の語形成論」『日本語学の新展開』 くろしお出版
20. 杉岡洋子 (1989) 「派生語における動詞素性の受け継ぎ」『日本語学の新展開』 くろしお出版
21. 『日本語学』1986年3月号 特集 接辞 明治書院